

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800221	
法人名	社会福祉法人 清長会	
事業所名	指定認知症高齢者グループホーム敷島荘	
所在地	甲斐市大久保1351	
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和3年2月9日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設施設(特養、デイサービス等)があるので、情報共有や情報交換ができ、利用者様をトータル的に支援していく事ができる。また緊急時の対応に関しても、併設施設との協力体制が整っている。
食事は手作りで、利用者様の嗜好にあったものや季節の食材を取り入れるよう努力している。笑顔、笑いの絶えない環境作りを心掛け、個々の能力に合わせたケアを行っている。
”もうひとつの家族”になれるよう日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲斐市の中央に位置する高台にあり、法人の特別養護老人ホームやデイサービス等が併設されている。見晴らしもよく、周辺には団地や公園、梅園があり自然豊かな環境にある。家族会があり、年2回の大掃除には協力が得られている。敬老会や夏祭り、避難訓練は併設施設と協力して開催し利用者、家族、地域の関係者も交えて交流している。事業所独自の理念として「もう一つの家族」を掲げ、利用者にとって笑顔が絶えない生活が送れるよう、一人ひとりの個性を尊重し職員間の連携を取りながら、利用者を主体にしたケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように(コロナ禍以前) 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が(コロナ禍以前) 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム敷島荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄閣や休憩室など目につく場所に理念をかかげ、職員一人ひとりが理念に沿ったケア、取り組みが行えるよう心掛けている。	法人の理念「高齢者の幸福の為のサービス提供と地域社会への貢献」に基づき、「もう一つの家族」を事業所の理念に掲げ玄閣や休憩室に掲示し、職員が常に意識できるようにしている。年度初めに事業計画を提示するのでその際に理念を共有しケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で施設や地域の行事が中止になり、関わる機会は減ってしまったが、運営推進会議の委員の方々には、定期的に利用者の様子や状況を報告し、情報発信を行っている。またブログの活用によって、日々の生活の様子も多くの方に発信している。	事業所の行事には家族や来賓、近所の住民、子どもたちが来訪して利用者や職員と交流している。団地の夏祭りには利用者や職員が参加し、職員の踊りは恒例になり祭りを盛り上げている。近所から果物を頂いたり、雪かきの協力を得る等良い関係を築いている。コロナの関係で今年の行事は縮小して開催した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	基本理念にある“高齢者の幸福のためのサービス提供と地域社会への貢献”を常に念頭に置き、日々取り組んでいる。また運営推進会議やオンブズマン委員会など地域の方々へ情報発信を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で今年度は会議を開催していないが、2か月に1回日々の利用者の様子や利用状況などを委員の方々に報告することで、グループホームでの生活の様子を理解して頂いている。またグループホームのサービスや運営の向上につながるよう、ご意見を頂いている。	2か月に1回開催し事業所の利用状況や利用者の生活の様子を報告し出席者と意見交換している。協議会の中で自治会から地域の高齢化について相談があり、事業所の公用車を高齢者の移動手段として貸出した。現在は、書面で事業所の状況を報告し、事業所便りやブログも活用して情報提供している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は市の各種委員会の委員を引き受けたり、情報交換を行っている。また運営推進会議の際には、市との情報共有や情報交換の場として活用している。	市の審査会をはじめ各委員会に出席している。認知症の研修会の講師を受けたり、介護相談員とも連携している。運営推進会議に市職員も参加し、事業所の報告を基に意見交換している。また、書類提出時には担当者で直接意見交換し、情報を共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄閣の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所では“脱身体拘束宣言”を掲げており、身体拘束ゼロに取り組んでいる。また委員会や研修で身体拘束について考え、検討し、理解を深めている。現在特にスピーチロックについて検討し、取り組んでいる。	毎月1回身体拘束委員会を開き、施設長、次長、各部署代表者がメンバーとなり、虐待防止、権利擁護も含めて協議し、研修会の報告もしている。現在はスピーチロックに重点を置き協議している。全職員にアンケートを実施し、集計結果をフィードバックして自己評価するとともに、日頃のケアを再確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	委員会や研修で虐待について考え、検討し、理解を深めている。また利用者の状態観察をしっかり行い、虐待の早期発見に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に利用者の中に成年後見人制度を利用している方もいたので、職員はこれについて学び、理解を深めている。また必要であればこれらを活用できるよう支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には利用者や家族と十分な話し合いを行い、疑問点や不安なことについてはしっかりと対応し、理解、納得に努めている。特に重要なことについては繰り返し説明し、家族の理解を得ている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム敷島荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談申し出窓口設置の案内を掲示し、周知している。また苦情箱も設置し、いつでも意見できる環境を整備している。オンブズマン制度、介護相談員も利用し、利用者の声が発見できるようにしている。利用者の家族による家族会もあり、定期的に会合を開催し、意見交換ができる場を設けている。	第三者による相談窓口の案内を掲示し、苦情箱も設置している。年2回家族会の総会と外食会があり、利用者と家族は施設役員や管理者、職員と意見交換する場がある。また、日頃から電話や来訪の際に気軽に意見や要望を言える環境を整えている。帰宅願望がある利用者の意向を受けて家族と事業所が連携し、要望に応じることができた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を行い、その中で意見や提案を出してもらい検討、反映させている。また意見や提案の出しやすい環境作りにも努めている。また年2回人事考課を行い、直接意見の言える場を設けている。	年2回施設長、次長による職員ヒアリングを実施している。職員は自己評価や意見、要望を書面で提出し、面接している。日常的には、介護日誌や連絡ノートに記入し、申し送りしたり、月1回の職員会議で協議、共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、各職員の意見や考えを伝える場を設けている。その際自分の思いを伝え、できるだけ尊重できるように努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年新任研修を開催し、職員の質の向上に努めている。また法人内外の研修にも積極的に参加し、より良いケアにつながるよう努力している。資格取得についても進んで取得できる環境、支援を提供している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会などに参加し、意見、情報交換を行っている。また山梨県グループホーム協会にも入会し、役員を受け、ネットワークを広げサービスの質の向上に努めている。また同法人内にもグループホームがあるので、情報交換を行い、切磋琢磨している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の意見の言いやすい環境づくりを心掛け、できるだけ多くの情報を収集する努力をしている。またちょっとした仕草にも注意を払い、その中からも情報を得られるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にできるだけ細かなところまで情報収集し、良いケアにつながるよう努めている。また信頼関係が早く築けるよう積極的に関わる努力をし、家族にも言いやすい環境を提供している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、関係者でよく話し合いを行い、本人に一番適している支援が提供できるよう努めている。また併設施設も備えている特性を生かした対応もできるので、それらも含め最後までしっかり対応するよう心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場になって考え、それぞれのペースに合わせた支援を行うよう心掛けている。またできるだけ多く触れ合う時間を設け、信頼関係を築けるよう努力している。共に暮らす家族だと思い日々生活している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム敷島荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会等を控えているが、会った際には積極的に声をかけ、情報交換を行い、信頼関係を築いていく努力をしている。またその中で意見、要望をくみ取り、ケアに反映していけるよう努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で思うように活動できないので、家族との電話の際に本人と代わって話をしている。また定期的にお便りやブログなどで家族に様子を伝えている。	家族の送迎でかかりつけ医の定期受診をする場合や事業所への提出物で来訪することはあるが、通常の面会は困難な状況にある。事業所内や利用者の様子については情報誌や法人のブログで紹介している。ブログの更新は定期的を実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場なので利用者同士の関係をしっかり把握し、時には職員が間に入り、皆が穏やかに過ごせる環境作りを努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に移られるケースも多く、利用者や家族とも顔を合わす機会があり、これまでの関係性を維持している。退所する場合はその後の支援についてもしっかり話し合いを行い、最後までしっかりフォローするよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけコミュニケーション、スキンシップを図り、その中より一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握する努力をしている。またその希望や意向に沿ったケアプランを作成するよう心掛けている。	居室担当職員が決めてあり、利用者の衣類や持ち物、身辺状況を把握している。日頃から利用者の言葉を受け止め希望や意向に対応している。意思表示が困難な場合も利用者の表情やしぐさ、家族からの情報で本人の意向に沿うよう、介護日誌や連絡ノートで共有しケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネよりできる限りの情報収集を行い、生活歴や趣味などの把握に努めている。また日々の会話の中からも情報を仕入れ、日々の生活の中で活かせるよう心掛けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中より個々の有する力を把握し、一人ひとりに合った支援を行っている。また個々の生活ペースを大切にしながらも共同生活が行えるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえケアプランに盛り込んでいる。また関係職員からの情報なども常に収集し、ケアプランに反映できるよう努めている。モニタリングも3ヶ月ごとに行っており、現状把握に努めている。	入居時の本人、家族のニーズや関係者の情報を基に介護計画を作成する。6か月で見直しているが3か月毎にモニタリングし、状況を把握し、必要があれば変更している。その際は、本人、家族、関係者にも内容を説明している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気付きなどは毎日個人ケースに記入し、職員間の情報共有に努めている。検討内容があれば随時または職員会議の中で検討し、統一したケアが行えるよう努めている。介護日誌の備考欄に必要事項を記載し、職員間の情報共有、周知を行っている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム敷島荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅の認知症の方の家族の介護負担を軽減するために共用型デイサービス(定員3名)、空床利用型ショートステイ(定員1名)が利用できる体制を整えている。また併設施設があるため連携を図っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でボランティアの受け入れを控えているが、少しずつボランティアは増えてきている所だった。今後また利用者に楽しんで頂けるよう、積極的にボランティアの受け入れを行っていくよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で今までのかかりつけ医が施設の嘱託医かを選択している。どちらにしても情報共有がしっかりできるように努めている。現在は今までのかかりつけ医が多数を占めており、様子や状況がしっかり伝わるよう努力している。また変化があった際は、職員が受診に同行し、直接状況を伝えるよう努めている。	ほとんどの利用者が今までのかかりつけ医に家族対応で受診している。他の方は事業所の嘱託医の往診を受けている。専門医は家族の送迎で受診しているが必要に応じて情報提供書を持参している。家族が出来ない場合は事業所の職員が対応している。緊急時対応も含めて医療と連携し、利用者の健康、安全を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで状態確認を行い、利用者の変化に気付くよう状態観察を行っている。変化があった時には併設施設の看護師に協力を依頼し、適切な指示を頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院に定期的に連絡し、情報収集や情報交換を行い、双方の希望もできるだけ伝えることでよい関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から家族等との話し合いの場を設け、できる限り家族の負担が大きくなりすぎないよう法人全体で支援するよう努めている。またできる限り家族の希望に添った対応ができるよう柔軟に対応している。	入居時に、重度化や終末期の説明をしている。同時に法人の特別養護老人ホームに関する案内もしている。本人の状況に応じて家族や関係者と協議して方針を決めている。終末期については職員や医療等体制面で今後の課題となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には併設施設の看護師に協力頂き、連携、対応している。また全職員が救命救急法の受講しており、利用者の急変時の対応に備えている。急変時の職員の連携体制も確認ができています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をしており、災害時の対応に備えている。また地震、火災、夜間などを想定した訓練も行っている。また地域住民が参加している会議などでは、随時地域の方々にも協力を呼びかけている。	法人として年2~3回防災訓練を実施し、事業所は2か月に1回火災、地震、夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署から水の消火器を借りて、操作訓練を実施している。運営推進会議で地域住民との協力体制を協議し自治会の方がグループホーム内を見学した。備蓄もあり災害時の福祉避難所になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気の中でも、人生の先輩として尊重し、言葉遣いや対応に注意している。	言葉遣いに配慮し呼称や声のトーンに気を付けている。居室に入る際のノック、トイレ誘導、入浴時の配慮等は日々のケアで実践されている。利用者のファイル等は外部の目に触れないように書庫に収めてある。申し送りの記録も目に触れないように管理している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム敷島荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いをいつでも自由に言うことができる雰囲気作りを心掛けている。また利用者の自己決定ができるような声かけも心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるよう努めている。また利用者の中でもいくつかのグループに分け、その人に合った対応、支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回施設にカットに来て頂き、週1回整容の日を設け、爪切りや髭剃り、耳かきなどを行い、身だしなみを整えている。入浴時には利用者とともに服を選びおしゃれを楽しんでいる方もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時や年1回嗜好調査を行い、利用者の好みの物を取り入れるよう心掛けている。また日々の会話の中にも注意して情報収集する努力もしている。食事の準備や片付けもできることは一緒に行うよう心掛けている。併設のデイサービスのバイキングにも参加することもあり、いつもと異なる場所、違った雰囲気の中で食事を楽しんで頂いている。旬の野菜などを頂くことも多い為、急遽メニューを変更して対応し、その時期の美味しい食材を頂き楽しんでいる。	法人の管理栄養士の指導の下、職員が献立を作成している。食材購入と調理は職員が行う。利用者が出来る事は一緒にしている。入居時と年1回利用者の嗜好調査をしているが日々の会話から利用者の好み、食べたいものを把握し、献立に反映している。季節の食材で調理したり、行事食、おやつ作りもしている。併設のデイサービスのバイキングに参加し、いつもと違う雰囲気を楽しむ機会がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の指導の下、職員が献立を作成している。手作りにこだわり、季節の食材を取り入れたりしている。摂取量の確認や声かけを行い、1日トータルに必要な摂取量が確保できるよう支援している。また個々の状態を把握し、量や盛りつけ、食事形態などを工夫して食べやすいよう対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後のうがいを徹底している。毎食後義歯の洗浄、残歯がある方は歯磨きも声かけにて行い、できない部分は介助している。また週1回入れ歯洗浄剤にて消毒を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立している方は維持していけるよう支援している。トイレの訴えがあればその都度トイレ誘導を行っている方、定時のトイレ誘導を行っている方もいるが、利用者の行動や様子をしっかりと観察し、排泄パターンの把握に努めている。トイレに座り、トイレで排泄できるよう促している。	排泄チェック表で個々の利用者の排泄リズムを把握している。それぞれ下着、リハビリパンツ、パット、夜間のみオムツを使用している方がいる。夜間はポータブルトイレを使用する方もいるが、出来るだけトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりと摂るよう声かけ、ヨーグルトやヤクルトなどの乳製品や食物繊維が多く含まれている食材を取り入れ、適度な運動も行うことで排泄を促している。排泄チェックで排便の確認をすることで便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土が入浴日になっており、その日の状態や様子いつでも、誰でも入浴できるよう対応している。また安全に配慮し、個々のペースで入浴を楽しんで頂いている。	月～土まで入浴日になっていて、週2回(月木、火金、水土)午前中に入っている。利用者の希望により時間帯や日を変更し、利用者の気分や体調を見ながら入浴を楽しめるように支援している。シャンプーや化粧品は個人の好みに応じて支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム敷島荘**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休憩をとって頂いたり、休憩をとらない方はホールで過ごしていただいたり、個々の生活習慣に合わせて快適に過ごして頂けるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴り、いつでも職員が確認できるようにしている。薬の変更があった時には随時介護日誌を活用し、全職員に周知している。薬は命に関わるものなのでしっかり確認し、確実に服用できるよう支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や家族などからの情報を参考に、できること、好きなことを行える環境を提供している。調理、清掃、洗濯たたみなど日々の生活の中の役割、習字、華道、工作など楽しみ事を行うことで充実した日々が送れるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、庭を散歩したり、外気浴を行ったり、時には庭でご飯やお茶をしたりして気分転換を図っている。また季節ごとのイベントを計画し、季節感を感じて頂いている。	小グループで車で外出し、梅園や季節ごとの花見、紅葉狩り、イチゴ狩り等を楽しんでいる。食材の購入に職員と一緒に出かけたり、買い物に行くこともあったが現在は外出が困難なので、小グループでのドライブや事業所の中庭でお茶会をしたり、中庭を散歩して外気に触れ、気分転換している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響で利用者からの依頼や必要なものを職員が購入して頂くことが中心になっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などの電話や手紙のやり取りの支援を行っている。電話の取りつぎや手紙の返事など職員が協力し、関係を断たないよう心掛けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、日当たりのよいホールは、利用者の憩いの場となっている。テレビを見たり、会話を楽しんだり、レクリエーションを行ったりなど、それぞれ心地よく過ごされている。またテーブル、ソファと自由に活用している。ホールの見えるところに利用者の作品を飾り、さらなる意欲につながるよう努めている。	フロアの天井は高く、明るく広々としている。床暖房のため室内全体が暖かい。ホールにはテレビやソファが置かれ、利用者同士が会話を楽しんだり、ゆったり過ごせる雰囲気がある。また、利用者の共同作品や習字を飾り、生活する人も来訪者も楽しめる装飾がされている。洗面台は3か所、車椅子対応トイレは2か所ある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファがあるのでそれぞれ思い思いに活用し、過ごされている。時には利用者の居室に入り、会話を楽しんでいる姿も見受けられる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で愛用していた愛着のあるものなどを持ち込んで頂き、できるだけ以前と変わらない環境の下で、居心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。	各居室に洗面台、クローゼット、ベッド、カーテン、エアコンが備えてある。クローゼットはハンガー掛けや衣装ケースが入るので部屋の中がすっきりしている。家族写真、タンス、テーブル、椅子、仏壇、囲碁の碁盤等を持ち込みその人らしい暮らしの場になっている。廊下や室内は朝夕職員が清掃し、清潔に保たれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールを中心に居室、トイレ、浴室などが配置されており、利用者一人ひとりが安心、安全に生活が送れるようになっている。			